

多様な生物がいのちを育む森づくり

内橋欣司・内橋くるみ（北はりま地域づくり応援団）

1 はじめに・・・

北はりま地域づくり応援団は、北播磨地域の住民活動に対し、住民の自立と独創性を確保し、住民自身が担い手となり、行政とのパートナーシップを築きながら継続的活動と、「参画と協働」の推進を図る為、北播磨地域の住民・グループ・団体により行われている様々な活動に対し、その活動が安定し、運営して行けるような協力、情報の提供、ネットワーク等をサポートする事を目的として、2004年4月に設立しました。

2004年から、兵庫県の「子どもの冒険ひろば事業」を委託し、公共施設・公園等でひろばを展開していました。しばりの無い自由な環境の中で冒険あそびをさせたいとの思いが有り、加東市の一角に、「北はりま冒険あそび場」を開場しました。

「北はりま冒険あそび場」は、兵庫教育大学の南側に位置し、近隣には、県立嬉野台生涯教育センター、県立やしろの森公園が有ります。

大きな1本松が、目標に成っています。地形は、すり鉢状の斜面で、下場には湿地が広がります。遊歩道は起伏に合わせ、けもの道の様に配置され、子ども達が楽しく森あそびが出来る様に、成っています。



2005年4月17日に地域の子供達を集め、開場イベントを開催しました。

あるある探検隊、子どもの冒険ひろば、自然体験環境キャンプ、自然体験活動研修会、子どもの冒険ひろばのプレーリーダー研修会を行い、3年間で、80回の活動を行い1550名の参加が有りました。

2008年から、県立三木北高等学校ECO-Pサークルと協働で「ソーラーパネルで森に光を」プロジェクトを立上げ、展開しました。技術面においては、NPO法人ワット神戸の協力を得、森にソーラーパネルを設置し、トイレ・集会場の照明として使用しています。

夏の自然体験環境キャンプ時には、森の秘密を知ろう学習会を開催し、樹木を知ろう・水中生物観察会・森の生き物の観察会等を開催しました。

2009年より自然体験活動・動植物の環境学習・森林保全活動の3本柱を軸にエコエネルギーで資源循環型の森づくりを展開しました。

「どんぐりっ子の森の目的・趣旨」

どんぐりっ子の森の「自然体験環境活動」は、子ども達が自然の中で遊び、学びながら、自然への理解を深め、自然を大切にする気持ちを育むと共に、「生きる力を育み」命の大切さを学び、人と人・人と自然とのつながりを学習するところです。

どんぐりっ子の森では「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、冒険心や好奇心を大切にするため、子ども達が、いろいろな遊びを通じ、のびのび生き生きと楽しめるあそび場と、五感を使って（見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる）自然の中で感動体験が出来る「自然体験環境活動」を展開して行きます。

又、どんぐりっ子の森では、エコエネルギーで資源循環型の森づくりをしながら、森に負荷を掛けない活動を展開して行きます。

2009年「エコエネルギーで資源循環型の森づくり」

太陽エネルギー、雨水エネルギー、森林エネルギー等を活用した、資源循環型の森づくりの活動を展開しました。雨水エネルギーの活用としては、雨水を集め簡易ろ過器を通して、炊事の洗い水として使います。汚れた水は、自然に負荷を掛けない様、簡易ろ過器を通して、水を綺麗にして自然に返します。子ども達は、ペットボトルで簡易ろ過器を作り、汚れた水が綺麗に成る事を体験しました。森林エネルギーの活用としては、森づくり活動により、処理した間伐材等を利用して、森の体験活動・キャンプ等の薪・燃料、きのこ栽培のほだ木として、活用しました。

2010年「どんぐりっ子の森づくり」

森林保全活動を展開しました。NPO法人環境21の会の協力により、森林保全活動「どんぐりっ子の森づくり」の紙芝居を作り、子ども達にも森づくりの大切さを解りやすく伝えました。参加者は、腰にノコギリを付け、雑木や竹林の整備等森づくりに汗を流しました。



II 森のなかまの紹介

2008年から開催した、森のひみつを知ろう学習会、自然観察会等で観察した森の動植物を今後の資料の基本とします。

植物は、現在、43種類確認されていますが、名前が分からない植物も多く有り、絶滅危惧種のアギナシ・ヒナノシヤクジョウ等の植物も観察されました。樹木は、現在のところ81種類確認されています。

水辺の生き物は、どんぐりっ子の森の一角に池が有り、多くの水辺の生き物が生息しています。森の中の池ですので、人目につく事も無く、外来種が余り入っていない為、昔ながらの、メダカ・フナ・コイ等が生息しています。昨年、イチモンジタナゴが多く生息している事が分かりました。

森のすそ野を流れる小川には、多くの水中生物が生息しており、2008年・2010年に、県レッドデータブックSランクのヒメタイコウチが発見されました。

水生生物調査指導員の赤松祐人先生によると、「2008年頃は、川底に赤土のような物が積った状態で、生物の種類も数も少なかったが、近年は観察できる生物類が増え多様性が進んだように思う。」とコメントを頂きました。

森の昆虫類は、71種類確認されています。

春先には、森の中を弾丸の様に、オオスズメバチが飛び・ギフチョウが舞います。夏は、セミの大合唱で夜が開けます。

夜、草むらには小さな明りを灯すヒメボタルが確認出来ます。森は生物の楽園です。いつまでもこの環境を維持出来る様に、努力していきます。



IV 2011年からの取組み

① 森の学校『冒険ひろば どんぐりっ子の森』

子ども達に森あそびを通して、「生きる力を育む」を目的に、冒険ひろば どんぐりっ子の森を開校します。幼児から小学生、その保護者を対象に「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに楽しく遊べる居場所を提供します。森での自然観察・昆虫採集・小川での魚取り・丸太アスレチック遊具・野外料理・キャンプ等、水・木・土・火等の自然の素材を使いのびのび生き生きと楽しめる森あそびを展開します。

又、子ども達の安全を配慮し、こどものあそびを見守るプレーリーダーや地域のボランティアの支援を頂き、『冒険ひろば どんぐりっ子の森』を展開して行きます。



② どんぐりっ子の森のづくり活動の推進

2010年から開始した、森づくり活動は、どんぐりっ子の森をメインステージとし、自然体験冒険の森・動植物観察の森・ふれあい交流の森エリアに区分し、地域住民のいこいの場、森林とのふれあいの場として、又、子ども達の、自然体験活動場・環境学習活動場として活用出来る様、地域住民の参画・協働を得て、自らの手で森づくりをして行きます。エコエネルギーによる（太陽・雨水・森の間伐材）資源循環型の森づくり・生物多様性保全の森づくりを展開します。

③ エコエネルギーで資源循環型の森づくりの推進 太陽エネルギーの活用

ソーラーパネルを活用し、トイレ・集会場の照明として使用。子ども達には、ソーラーパネル付きランタンを使い日中太陽の光を受け充電させテントの灯りにします。

充電不足で真っ暗に成る事もあり、エネルギーにも限り有る事を体験し、太陽の恵を体感します。



雨水エネルギーの活用

雨水を集め簡易ろ過器を通し、洗い水として使用。汚水は、自然に負荷を掛けない様、簡易ろ過器を通し、水を綺麗にして自然に戻します。

森林エネルギーの活用

森づくり活動により、処理した間伐材等を利用し、薪・燃料に活用。又、竹材を使いエコ炭を作り、家庭に持ち帰り、消臭・水の浄化に役立てます。

